

第1学年 特別の教科 道徳 おおひとやま
「すこしぐらい」(内容項目:C 規則の尊重)

M

令和2年9月23日(水) 2校時
和みの学び舎 世田谷区立東玉川小学校
第1学年2組 33名
指導者:村上 美紀

1 本時について

■ねらい

○きまりを守らずに、少しでもならいいだろうという考えから行動することで、多くの人に影響を与えてしまう危険があることに気づき、進んできまりを守ろうとする態度を養う。

■情報モラル教育の視点

○相手への影響を考えて行動することの基盤ともなるきまりや約束を守る態度を養うとともに、自他の個人情報第三者に漏らしてはならないことに気付かせる。

2 本時の流れ

	主な学習活動	○指導上の留意点 ☆教科等の評価(評価方法)
導入	① 本時の課題について確認する。 ・「少しぐらいよい」と思うのはどんなときか、事前アンケートの結果を知る。	○アンケート結果を基に、学校の中だけではなく、普段の生活からもイメージできるようにし、身近な問題として捉えられるようにする。
展開	② 教材「おおひとやま」を読んで考え、話し合う。 ・みんなは、どんな気持ちで石を持って帰ったのでしょうか。 ・きまりがあるのに隠してまで持って帰らなかったのは、どんな気持ちからでしょう。 ③ おおひとやまが小さくなってしまったとき、みんなはどんなことを考えたでしょう。	○場面絵を使いながら、読み聞かせる。 出典:日本文教出版『しょうかく どうとく いきるちから1』 ○自分の幸せだけを考えた自己中心的な思いから石を持って帰ったことを捉えさせる。 ○自己中心的な思いとともに、隠して持って帰っていることからしてはいけないことだと理解しながらも行っていることに気付かせていく。 ○ワークシートに書かせ、それぞれの考えを交流する。 ○持って帰った人だけが困ったのではなく、ルールを守って持って帰らなかった人たちも困ったことに気付かせていく。 ☆少しでもならいいだろうという考えで、きまりを守らないことは多くの人の迷惑や悲しみに繋がることを理解している。(ワークシート・発言)
	③ 自分に身近な場面を通して「少しぐらいよい」ということについて考えを深める。 ・SNS 東京ノート「るすばんをしていたときのできごと」を見て、知らない人に人の電話番号を教えてよいかどうか考え、話し合う。	○3 択の中から選ばせ、どうして選んだかを共有させる。 ○安易な親切心や「少しぐらいなら」という気持ちでしてしまったことから、大きな危険に発展する場合があることに気付かせていく。
終末	④ 学習のまとめをする。	○ワークシートに本時の振り返りを書かせ、進んできまりを守ろうという意欲を高める。

第2学年 学級活動

「ゲームやタブレットにむちゅうになると」

M

令和2年9月15日（火） 5校時
和みの学び舎 世田谷区立東玉川小学校
第2学年2組 32名
指導者：笠原 盟子

1 本時について

■目標

- ゲームやタブレットに夢中になりすぎると、生活に悪い影響があることに気付く。
- やりたい気持ちにストップをかけるためにも、家の人との約束を守ることが大切だと気付く。

■情報モラル教育の視点

- 家族とゲームや端末の利用について約束を決め、守ることの大切さに気付かせる。

2 本時の流れ

	主な学習活動	○指導上の留意点 ☆教科等の評価（評価方法）
導入	① 携帯ゲームやタブレットの利用実態を確認する。 ② 家の人との約束の有無を確認する。 <u>主人公のいけなかった行動を見つけよう</u>	○自分の利用の様子を振り返る。 ○家の人との約束の有無とそれを守っているかを振り返る。
展開	③ 教材ムービー「ケータイゲーム機に夢中になると」をまとめの前（11まで）を通して見る。 ④ ストーリーの中で気になったところをワークシートに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・隠れてゲームをしている。 ・約束を破ってゲームをしている。 ・お母さんにうそをついている。 ・学校で居眠りをしている。 ⑤ 授業中に居眠りをしてしまったのはなぜか、考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・夜、遅くまでゲームをしていたから。 ・約束を破ったから。 ⑥ ゲームを止められなかったのはなぜか、考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームに夢中になっていたから。 ・我慢できなかったから。 ・お母さんに見つからなければいいと思ったから。 ⑦ どうしたらよかったか、考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・約束を守る。 ・ゲームにはまりすぎない。 	教材ムービー 「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」（文部科学省） http://jouhouka.mext.go.jp/contents/ ○約束をやぶって隠れてゲームをしていることを確認する。 ○居眠りをしていたことを確認する。 ☆ストーリーの中で主人公がとった行動で、何がいけなかったかを考えることができる。（ワークシート・発言） ○ワークシートに書き、友達とグループトークでいくつかの要素を考える。 ○ゲームは、止めにくいことに気付かせる。 タブレットで見られる動画サイトも同様だということに気付かせる。 ○ゲームを作る人、動画サイトを作る人は、続けてもらうために作っていることを話す。
まとめ	⑧ 携帯ゲームやタブレットで動画を見るときに注意を確認する。 ⑨ ワークシートに振り返り（自己評価）をする。 ⑩ 全員で振り返りをする。	○約束は、自分たちを守るためにあるものだということを確認する。 ☆本時で学んだことを理解している。（ワークシート・発言） ○ワークシートを家に持ち帰らせ、家での約束を確認する。

第3学年 総合的な学習の時間「パソコンに親しもう」 「こんなメッセージがとどいたら、どうする？」

M

令和2年9月17日（木） 6校時
和みの学び舎 世田谷区立東玉川小学校
第3学年1組 29名
指導者：植松 良子

1 本時について

■目標

- メールやメッセージ等の短い文章では、自分の意図が相手に正しく伝わらないことがあることに気付く。
- いやな気持ちになったときや困ったときに、どうすればよいかを考える。

■情報モラル教育の視点

- 文字だけのコミュニケーションでは、自分の意図が相手に正しく伝わりにくいことに気付かせ、自分の言葉を相手がどう捉えるか考えようとする態度を養う。

2 本時の流れ

	主な学習活動	○指導上の留意点 ☆教科等の評価（評価方法）
導入	① 児童の実態・経験を確認する。 ② 本時の課題を知る。 こんなメッセージがとどいたら、どうする？	○これまでに、インターネットでメッセージのやり取りをしたことがあるか確認する。
展開	③ 教材ムービー「傷つくようなメールが来たら」を視聴する。 ④ 自分がチヒロさんだったら、友達から届いたメッセージをどのように感じるかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・「いいよ」というメッセージを見て、どう感じたかをワークシートに書く。 ・感じたことを全体で共有する。 ・「かわいくない」「なんでくるの」というメッセージについても考える。 ⑤ チヒロさんは、これからどうしたらよいか考える。 ⑥ トラブルにならないようにするために、どのようなことに気を付けたらよいか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手がどのように受け取るかを考えてメッセージを書く。 ・直接伝えられることはあえてメール等を使わないことを確認する。 	○教材ムービー 「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」（文部科学省） http://jouhouka.mext.go.jp/contents/ ○同じメッセージでも、人によって受け取り方が異なることがあることに気付かせる。 ☆メールやメッセージ等の短い文章では、自分の意図が相手に正しく伝わらないことがあることに気付いている。 （ワークシート・発言） ○相手の立場に立って考えるように助言する。 ☆いやな気持ちになったときや困ったときに、どうすればよいかを考えている。 （ワークシート・発言）
まとめ	⑦ 本時の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・メールやメッセージ等の短い文章をやり取りするときに気を付けることを確認する。 	○本時で学んだこと、これからの生活に生かしていきたいことを振り返らせる。

第4学年「上手に検索」

～情報を検索して、正しく選ぼう～

M

令和2年10月1日（土） 3校時

和みの学び舎 世田谷区立東玉川小学校

第4学年2組 33名

指導者：安藤 睦

1 本時について

■目標

○情報を検索する際に基本となるAND検索の方法を身に付ける。

○検索した情報の信頼性について考える。

■情報モラル教育の視点

○検索結果の全てが正しい情報とは限らないこと、複数のサイトページや、他のメディアを参照する必要があることに気付かせる。

2 本時の流れ

	主な学習活動	○指導上の留意点 ☆教科等の評価（評価方法）
導入	① 本時の課題を知る。 <div>検索の仕方を考えよう。</div> ② 「昔のくらし」について検索する。（SNS東京ノート） ③ AND検索について知り、「昔」「遊び」「人気」等、より狭義な内容で検索をする。	○SNS東京ノートを活用し、インターネットを活用した検索方法を確認する。 ○AND検索で、キーワードの間にスペースを入れることで、絞り込まれた情報を入力することができることを伝える。
展開	④ 「昔ばなし最終決定戦」のwebページを閲覧し、内容を読む。 ⑤ 内容について話し合い、気付いたことを発表する。 ⑥ インターネットの情報には、真偽不明なものもあり、1つのサイトだけで正しい情報と判断することは難しいことに気付く。 ⑦ 学んだことをSNS東京ノートのワークシートで振り返る。	○虚構新聞「昔ばなし最終決定戦 優勝は…」の記事を児童のタブレットに送信する。 ○内容について、話し合い、気付いたことや考えたことをまとめさせる。 ○インターネット上にあっても、真偽が不明な場合もあり、確かめるためには他のサイトを参考にしたり、サイトがどこから発行されているかを確かめたり、本や新聞等の他のメディアなどでも真偽を確かめたりする必要があることを伝える。
まとめ	⑧ 本時の振り返りをする。 ・気付いたことや感想を発表する。 ・全員で振り返りをする。	☆検索の方法や検索の内容について学んだことを振り返ることができる。 （ワークシート・活動の様子・発言）

第5学年 総合的な学習の時間「情報モラルを守ろう」

M

「言葉や行動の受け取り方の違いを考えよう」

令和2年9月25日（金）1校時
和みの学び舎 世田谷区立東玉川小学校
第5学年1組 28名
指導者：櫻田 真紀

1 本時について

■目標

- 人によって感じ方が違うことがあることに気付く。
- 文字だけで伝えると、感情が伝わりにくいの、誤解されやすいことを理解する。

■情報モラル教育の視点

- 自分が発信した言葉や情報が他人や社会に与える影響に気付かせる。

2 本時の流れ

	主な学習活動	○指導上の留意点 ☆教科等の評価（評価方法）
導入	①本時の課題を知る。 「自分と相手とのちがい」を考えよう 自分や相手の感じ方の違いについて考える。	○選んだカードの提出はロイロノートを使用することを伝える。
展開1	②カードを選んで話し合おう（1） ・クラスの友達から言われて「いやだな」と感じる言葉を1つ選び、ロイロノートで提出する。 ・選んだ理由をSNS東京ノートに書く。 ・全体で話し合う。 ・話し合って気付いたことをSNS東京ノートに書く。	○それぞれが人に言われて「いやだな」と思う言葉や理由には違いがあることが視覚的に分かるようにする。
展開2	③カードを選んで話し合おう（2） ・クラスの友達からされて「いやだな」と感じるもののランキングを付ける。 ・1番嫌だと思うものをロイロノートで提出する。 ・選んだ理由をSNS東京ノートに書く。 ・全体で話し合う。 ・話し合って気付いたことをSNS東京ノートに書く。 ④伝わり方の違いを考えよう。 ・文字だけで伝えた場合と、顔を見ながら伝えた場合の伝わり方の違いについて、実演し、考える。	○携帯やスマホを持っていない児童には、持ったときにされていやだと思うことを想像させて、選ぶようにする。 ○それぞれが人にされて「いやだな」と思うことや理由にも違いがあることが視覚的に分かるようにする。 ☆人によって感じ方の違いがあることに気付いている。（SNS東京ノート・発言） ○②で使用したカードをタブレット PC の画面に表示させて伝える場合と、相手の顔を見ながら同じ言葉を伝える場合とを試し、伝わり方の違いを感じられるようにする。 ☆文字だけでは込められた感情が伝わりにくいことを理解している。（SNS東京ノート・発言）
まとめ	⑤学習のまとめをする。 ・本時の振り返りや今後大切にしたいことをSNS東京ノートに記入する。	○本時を通して学んだことを具体的に書くように声掛けする。

第6学年 「グループトーク」

M

令和2年9月23日（水） 5校時
和みの学び舎 世田谷区立東玉川小学校
第6学年1組 32名
指導者：田口 彩香

1 本時について

■目標

○グループトークなど SNS を利用したメッセージのやりとりにおいて、文字だけで伝え合う場合には、言葉を選び、相手がどう受け取るかを考えることが大切であることに気付く。

○複数人が参加するネット上でのトラブルや危険性について知る。

■情報モラル教育の視点

○文字だけで伝え合う場合に大切にすべきことや複数人が参加するネット上でのトラブルや危険性について気付かせる。

2 本時の流れ

	主な学習活動	○指導上の留意点 ☆教科等の評価（評価方法）
導入	①本時の課題を知る。 「楽しいコミュニケーション」を考えよう グループトークのよさについて考える。	○グループトークとはどのようなものか知らせる。
展開1	②SNS 上でのトラブルについて知り、原因や解決策について考える。	○文字で伝えるときやお互いの顔が見えないときのメッセージのやりとりがどのようなトラブルに繋がるのか考えさせる。
展開2	③SNS を利用する様々な場面において、ありそうなりiskを想像する。 4つの視点から、起こりそうな展開を予想し、危険やトラブルを回避する情報の発信、受信の仕方について考える。 視点 (1)賛成する人の視点 (2)ふざけやすい人の視点 (3)信じやすい人の視点 (4)批判しやすい人の視点	○役割や視点を変えて情報を発信する側と情報を受け取る側、それぞれに配慮すべきことについて考えさせる。 ☆文字だけで伝え合う場合に大切にすべきことや複数人が参加するネット上でのトラブルや危険性について気付いている。（ワークシート・発言）
まとめ	④学習のまとめをする。 今後 SNS を利用していく上で大切にしたいことや本時の振り返りを記入する。	○文字で伝えるときの配慮について考え、正しく、楽しく SNS を利用するために大切にしたいことを記入させる。